

2021年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2021年度学校関係者評価委員会は、「2020年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2020年度学校評価アンケート」（全校保護者対象。以下「学校評価アンケート」）、「2020年度授業評価アンケート」（全校生徒対象。以下「授業評価アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。今年度は新型コロナウイルスの影響下でしたが、短時間の学校見分（中3オーラル授業見学・体育祭見学）並びに9月15日・11月17日討議を行いました。

本委員会は次の3点を柱として協議しています。

- （1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- （2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- （3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

（1）キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

- ・週1回の全校礼拝では、「静かにしてください」という注意をする必要がなく、キリスト教主義学校に学ぶものとしての姿勢が見についているように思われる。
- ・全国学力調査の教科以外のアンケート調査を見て、「自己肯定感の高まり」がみられた。「人の役に立ちたい」という項目では、肯定的な回答は過去最高になった。
- ・今年度の宗教週間では、広島女学院の生徒・OGを迎え、「平和を考える」署名キャンペーンを行った。
- ・学期に一回、あるいは不定期に宗教部関連の授産施設でのパン販売を行っている。販売自体も好評だが、様々な方との出会いになっている。
- ・BlueEarthの活動など環境問題を扱うヴォランティアの動きはキリスト教的な学校として 大切だ。それが国際感覚や地球規模の視点を養うことに繋がっている。今、それが学校の特色の一つになっている。
- ・昔と比べて変化している点もあるだろうが、弱者に目を向ける優しい生徒を育ててほしい。
- ・担任の先生を親子ともども信頼している。保護者にできない相談事を担任に相談していることもあり、助かっている。

（2）学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

- ・「いじめ」についてのアンケート、「どんな理由があってもいけないことだと思いますか？」について「当てはまる」「どちらかという当てはまる」という回答が90%以上だった。
- ・「友達と協力するのは楽しい？」について、90%以上の肯定的な回答⇒良い傾向が見られる。
- ・授業見分（中3オーラルの授業）には、発言しやすい雰囲気があった。親しみやすい授業が行われており、生徒の積極性に繋がるものと理解できた。そこに人間関係の構築を見た。
- ・楽しく学校に通学できているということが何よりだ。学校評価アンケートの「入学してよかったか」という設問の結果からも様々なことに学校が対応していることが分かる。
- ・娘が中学生だったときに担任から「人間関係の重要性」の話を聞いた。学力の向上策との関連を聞くとともに、先生方の大切にしているものが分かるように思った。

- ・授業を見て、生徒と教員の距離が近いように感じた。質問しやすい環境になっている。生徒同士が教えあう様子に「全部がうまく繋がっている」ように見えた。
- ・授業ではなく、LINE等のトラブルやその他、生徒同士の仲裁や介入方法などに教員が苦慮する場面があるようだ。そういった役割を果たすことを教員が期待されているように思う。

（3）豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

進学関係資料より

- ・経済・経営・商、法・政治 などへの志向が増加の様子、今後の課題は理系進学者の拡充
- ・中3家庭学習時間 過去最高の家庭学習時間（コロナ禍による影響もあり）

「家庭での学習時間の確保」が学力定着と進路実現には欠かせない

- ・「英語が好きですか?」「英語を話せるようになりたいですか?」2021年6月調査
ストリーミングに入った中1中2(DS・GS)生徒対象 88.5%、91.5%
2019年度 学校評価アンケートでは 中1 54%、中2 41%

GSの授業風景(録画)を見て、

- ・パワーポイントを使いこなしている様子に驚いた。皆が自信をもって発言している。
- ・GSで発表の苦手な生徒もいるだろうが、教員が前向きに取り組んでいる
→英語入試で入学してきた生徒たちで入試では自己紹介だけではなく、話すことを課しており、人前で話すことへのハードルは高くない。他教科では、必ずしも成績が素晴らしいわけではない。DSでも英語が伸びる生徒もいる。
- ・「実際に話せる英語」がコンセプトになっているということを実感した。これがGSだけではなく、DSでもそうならばよいと思う
- ・上の学年(中3以上)でも発言機会を与えることで性格が前向きになっていけばよいと思った。みなが発言する機会があればよい。
- ・授業を見てびっくりした。英語の力をテストで測るのではなくて、意思疎通のツールとして使用しようとしていることが分かった。
- ・ICTの利用も教員や教科によりさまざまなようなので、今後も教員の利用を促進してほしい。
- ・ネイティブの教員がナチュラルスピードで話すのを、生徒が理解して日本語で返答する様子が見られた。英語コミュニケーション力がついてきていると思った。動画を使った単語のクイズには、生徒が集中している様子が見て取れた。
- ・英特以外のクラスの生徒も英語で力がつけば、全体のレベルアップにつながると思う。
- ・併設教員による大学特講の授業が楽しいと言っている。そのようなきっかけを提示して、生徒の学習や進学に対する意識を高めてほしい。
- ・英特クラス等の設置について、学力別クラスではないかと疑問に思う気持ちもあったが、子どもたちはそのクラスを一つの目標として頑張っている様子が分かり、良い作用をもたらしている。
- ・授業担当ではない先生でも質問できる環境がありがたい。どの教員にも見てもらえているという実感がある。

以上、2021年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名

保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、

卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者

- 2、校長、副校長、事務長 4名